
殺す？殺さない？

晶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

殺す？殺さない？

【Nコード】

N4954Q

【作者名】

晶

【あらすじ】

いつものように、ランボを返り討ちにしたリポーン。

しかし、10年バズーカでやってきた大人ランボはリポーンを殺したと言っていて？

「死ねリポーン！」

いつものように、ランボが手りゅう弾を投げた。

「あっ！ちょっとランボ！」

「黙れアホ牛。」

顔色一つ変えずに、リポーンはすべてをはじき返す。

そして、軌道の変わった手りゅう弾は、ランボに直撃した。

「……………が…ま…うわあああっん！」

おお泣きし始めたランボは、頭のもじやもじやの中から10年バズーカを取り出す。

「けっ、つきあってらんねーな。出直してこい。」

リポーンはそれだけ言い捨てて、どこかへ去ってしまった。

「オイリポーン！ああ、泣くなランボ……………ってうわあ！」

バズーカが発射され、煙の中から10年後のランボが現れる。

もう、見慣れた光景……………でも、いつもと違う。

大人ランボが血まみれだ。

「……ああ、お久しぶりです、若きボンゴレ。」

目に力がなく、元気がない。

「ランボ！どうしたのその血！けがでもしたのか?!」

何があつたんだ？そんな血まみれになつて……

「俺は大丈夫です、俺の血ではないので。」

「なんだ……よかつた。」

「よくなんか………ないです。俺は………遂に『リボーン』を……っ!」

「どうしたんだ？またリボーンになんかされた？」

尋常ではない様子のランボを落ち着けようと、ツナは努めて平静なふりをする。

しかし、それも無駄だった。

「逆です……俺は遂にリボーンを殺したんです。ごめんなさい、若きボンゴレ。」

頭が、真っ白になった。

「………なんで？」

それだけ言うのがやっとだ。

だってランボは

うざいけど

ヘタレだけど

いつも賑やかで

あつたかくて

いざって時にはやるやつで……

「忘れてませんか？俺はボヴィーノファミリーの人間で、リポーンを消すために送り込まれたんですよ？はじめからこうするつもりだったんです。ガキの俺では実力が足りなくて、時間はかかりましたが。」

もう一度、ごめんなさい、と消えそうな声で呟くと、ボンツと煙が立ち上り、ランボは未来へ帰って行った。

「ガハハ！リポーン逃げたもんね！今回はランボさんの勝ちだー！でもまだやるんだもんね！どこだー！」

信じられない。

このランボが……

リボーンを・・・？

「待て！ランボ！」

どこかへ行くこうとするランボを、あわてて捕まえて抱え込んだ。

「ぐびゃ？ツナ？」

腕のなかにすっぽり収まるようなガキ。

それでも、すぐに大きくなる。

「あゝっ、さてはツナ、ランボさんがリボーン殺さないように捕まえてるのか？だめだもんね！ランボさんはやるもんね！」

「だめだよ。絶対にやらせない。」

『よくなんか・・・ないです。』

確かに大人ランボはそう言った。

殺したくなんか、なかったんだ。

「絶対にお前にそんな思いはさせない。未来なんか変えてやる。」

end

ツナが眠った夜中、二つの人影がひそひそと密談していた。

一つは帽子をかぶった2頭身。もうひとつは、頭に牛の角をつけた青年。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4954q/>

殺す？殺さない？

2011年10月8日15時28分発行